

大井川の概要

南アルプスの赤石山脈などの3千m級の山々に源流をもち、左右岸大小の支流を合わせながら延々160km余を流下、志太・榛原の扇状地を形成し、駿河湾へと注ぐ。

大井川の名は、「日本書紀」(720年・奈良時代の史書)に見られ、江戸時代には全国的に有名になった。湧水のこと「井」、用水路や流れのことを「井水」と呼ぶことから、大井川は「偉大な水」、「大きな水の流れ」という意味を持つ。

大井川にまつわる悲恋物語

●朝顔目あきの松

近松徳叟ら合作の浄瑠璃「生写朝顔日記」によると、芸州(広島県)家老の娘、深雪は、恋人(阿曾次郎)が改名したことを知らずに家出し、流浪の果て盲目となって朝顔と称するようになった。島田宿までたどり着き、ようやく逢えるようになったが、川留めにあい、気づかずすれ違ってしまふ。それに悲嘆し、死を決意するが助けられ、奇跡的に目が見えるようになった。その時初めて見た松が、「目あきの松」と伝えられる。現在の松は5代目である。



●吉三地蔵

川会所の北側に関川庵という無住職の小さな寺がある。そこに安置されている地蔵尊は吉三地蔵と呼ばれている。吉三は小野川吉三郎といい、放火の罪で処刑された八百屋お七の恋人で、お七亡き後、僧となり放浪、島田宿で没した。近くの人々は亡骸を関川庵に葬った。それから後、ある江戸の僧が修行の途中この地を訪れ、この話を聞くにおよび吉三が自分の父とわかり墓を立てたと伝えられる。



ギネス認定



「世界一長い木造歩道橋」(897.4m)

平成9年12月に英国ギネス社より認定を受けました。

また、今では全国で数少ない「木造貨取橋」となっています。

蓬萊橋の歴史

1869年(明治2年)7月、最後の將軍徳川慶喜を護衛してきた幕臣たちが大井川右岸、初倉にある牧之原を開拓し、お茶を作り始めました。

当初は大変厳しい環境の中で、筆舌につくせない苦勞の連続でありましたが、そのかいがあつて順調に茶栽培が営まれるようになりました。

こうして生活が安定するにしたがつて、初倉の人々は、島田へ生活用品や食料品を買いに出かけるようになってきました。

また、島田の人々も初倉に山林、原野の開墾のために出かけるようになりましたが、大井川を小船で渡らなければならず、大変危険でありました。

そこで、島田宿の開墾人総代達は、時の静岡県令(現在の知事)に橋をかける願いを出し、これが許可され、1879年(明治12年)1月13日に蓬萊橋が完成しました。

しかし、蓬萊橋は木橋のため、大井川の増水のたびに被害を受けてきたので、1965年(昭和40年)4月にコンクリートの橋脚に変え、今日の姿となりました。

全長897.4m、通行幅2.4mの蓬萊橋は、1997年(平成9年)12月に「世界一長い木造歩道橋」として英国ギネス社から認定を受け、全国的にも有名な観光名所となりました。

2003年(平成15年)3月には高輝度LED照明機器が設置され、日没とともに緑色の光が橋の輪郭を浮かび上がらせ、幻想的な空間を演出し、島田市民にも大井川の自然と一体となった木橋として親しまれています。

渡橋時間

終日

渡橋料金

(1回あたり)

歩行者	
中学生以上	100円
小学生以下	10円
自転車	100円
1ヶ月定期券	
中学生以上	800円
自転車	1,000円

*原動機付自転車以上の車両は通行できません。

蓬萊橋までの地図



■交通案内 JR島田駅から徒歩20分、東名吉田ICから車で8km・15分、国道1号線旗指ICから車で3.5km・5分
新東名島田金谷IC.から車で8.5km・20分

- 島田市観光協会 〒428-0047 静岡県島田市金谷新町14番地の2
TEL0547-46-2844 FAX0547-46-2861
HP <http://www.shimada-ta.jp/> e-mail: kankou@shimada-ta.jp
- 島田駅前観光案内所 〒427-0022 静岡県島田市本通一丁目4788番地の5
TEL&FAX 0547-37-1241
- 金谷駅前観光案内所 〒428-0047 静岡県島田市金谷新町2122-6
TEL&FAX 0547-46-3500
- 島田市スポーツ・経済部観光課 〒427-0042 静岡県島田市中央町1番の1
TEL0547-36-7163 FAX0547-37-8982
HP <http://www.city.shimada.shizuoka.jp> e-mail: kankou@city.shimada.shizuoka.jp

